

中学生の職業体験

田丸 あけみ

5月24日、25日に、熊取南中学校の職業体験で、2年生10名がアトムにきました。アトムでは、2年生の職業体験の他、3年生の保育体験も受け入れています。

職業体験や保育体験は、中学生が小さい子どもと触れ合うことが出来る貴重な体験です。

将来、親になるであろう中学生に「小さい子どもと触れ合っただった？」と聞くと、「かわいかった」「大変だった」「言う事を聞いてくれなかった」など、感想を伝えてくれました。中には「大人になったら、こんな小さい子を毎日見なくてはいけないんだなあ。」としみじみ言っている生徒もいました。今、乳幼児の子育てをしている親から見ると、中学生はとても大きく感じるでしょうが、一人一人話を聞いてみると、まだまだ幼い所もあり、素直にいろんな気持ちを話してくれました。昨今、乳幼児虐待のニュースが毎日のようにテレビから流れてきます。

その背景には、幼い子どもと触れ合う機会が少なく、どう接したらいいかわからないことや、子育ては自分の思い通りにいかないことの連続だという事を体験としてわからないまま大人になり、親になっているのも要因の一つにあるのではないかと私は、考えています。だから、中学生には、毎回、体験終了後に「いつでもいいから保育園に遊びにおいで」と伝えています。

きっと、学校の勉強だけでは体験できない、生きた体験を保育園でできると思うのですが、中学生ともなると恥ずかしいようで、保育園に足を運ぶ事をためらうようです。でも、是非遊びにきてほしいなと思います。これも、大きな保育園の役割だと感じています。

この二日間、中学生は、アトムっ子達に心を癒されたようで、アトムっ子達も、お兄ちゃんやお姉ちゃんが来てくれて大喜びでした。

親としての、私の葛藤。

4月から中学一年生になった我が娘。5月に早速、中間テストがありました。

入試制度が変わって内申点が、中学一年生から反映されることになり、学校でも、忘れ物をしたりすると先生に「忘れたら内申下がるよ」と言われているようです。

娘の勉強に苦悩する姿や、内申点を気にしながら学校の用意をしている姿を見て、私もその渦に巻き込まれてしまいそうです。「産まれてきてくれてありがとう」この言葉が親として最高の宝物で伝えたい事なのに、目先の事に、娘と一緒に心動かされている自分を情けなく思い、自分で自分を叱っている毎日です。中学生にもなると、親は、見守る事しかできない。だから、せめて家だけは、ほっと出来る空間にしてあげなくてはと思うのですが、これもまた難しく、思春期の我が子と向き合う日々です。

5月に、消防署の方に来て頂き、救命講習会を行いました。毎年、救命講習会を行い、身の引き締まる思いで参加しています。アトムには、AEDを設置しています。AEDの使い方も必ず、講習会の中で学んでいます。アトム周辺でもしもの事が起こった場合、アトムの事務室にAEDがあることを保護者の方も覚えておいて下さい。